

〈連載(134)〉

## 日本のクルーズマーケット成長の夢



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授

池田 良穂

この4月から、筆者の所属名が大阪府立大学工学部海洋システム工学科から上記のものに変わった。これは大阪府立大学の工学部が大学院大学になったため、大学工学部に所属していた筆者ら教員は全員大学院の所属となり、そこから学部で教育に力がかかることとなった。

少子化で厳しい環境におかれ、さらに国立大学のエージェント化も進められることとなり、全国の国公私立大学は、それぞれ生き残りのために必死の模索を続けている。筆者の大学の工学部は、研究型大学として生き残りをかけることとし、大学院重点化を進め、ようやく大学院大学としてのお墨付きをもらった。正式名称は、大阪府立大学大学院・工学研究科・機械系専攻・海洋システム工学分野と、きわめて長ったらしいものである。前置きが長くなったが、ここで本題に入ろう。

前々回の本コラムでも取り上げたが、マレーシア資本のスター・クルーズの日本市場進出によって、日本のクルーズマーケットが急速に膨らみはじめた。筆者も、同

社の「スーパースター・トラス」に、3月の試乗会も含めて既に2回乗船し、6月には研究室の学生が企画する研究室旅行で再び乗船することになっている。この研究室旅行は、毎年の恒例となった行事で、研究室内の親睦を深める目的で、比較的近場の民宿や公共の宿を利用して、2泊3日で実施するのが普通である。

しかし、「スーパースター・トラス」のパンフレットを見た企画幹事の学生たちは、すぐにこれに飛びついた。3泊4日の韓国まで行くクルーズで、食事もすべて入って3万円台であるから、従来の研究室旅行より若干高いだけ。クルーズには、憧れはあるものの高値の花と思っていたのが、突然費用的に研究室旅行レベルのものが出現したのである。スキー旅行や、ディズニーへの旅行、そして温泉旅行と同列で憧れの「クルーズ」が選べるというのは彼らにとって画期的な出来事であったようだ。

筆者の研究室だけでなく、噂を聞きつけた他の学生も飛び入り参加することとなり、20名あまりで「スーパースター・トラス」に乗船することとなった。これが筆

者にとっては3回目となるが、安い価格につられて、また乗船することとなるかもしれない予感がする。

筆者のようなサラリーマンでも、抵抗なしに出せる費用で、休暇を取る日も少なく(週末クルーズの場合、月曜だけの休暇でOK)、しかも十分に楽しいクルーズができることが嬉しい。

古くからクルーズを扱う旅行業者の方に聞くと、「スーパースター・トラス」への乗船者は、従来のクルーズ愛好者とは違った人々が中心と聞く。筆者の研究室旅行の場合のように学生、OLなど若い人々も多いらしい。

日本のクルーズマーケットも、スター・クルーズによって、その裾野の開発が急速に進展していることが分る。運輸省の掲げる「クルーズ100万人構想」が、その実現に向かって動き出したように思う。

スター・クルーズは、来年から横浜起点で7万トンの大型クルーズ客船「スーパースター・レオ」による定期クルーズを実施することを公表しており、さらに「スーパースター・トラス」級船の追加投入も検討しているとか。積極的に、日本の大衆マーケットを開拓する戦略のようだ。

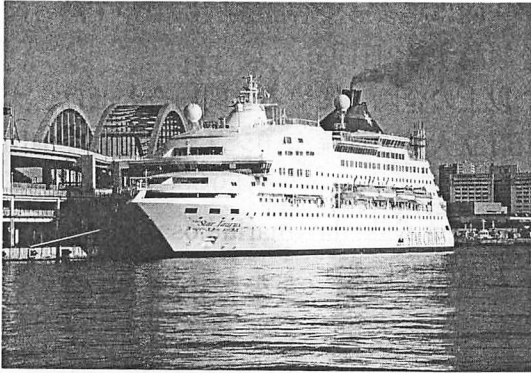
運輸省の報告書には、100万人構想を実現するための具体的な事例が試算されており、100万人のうち60万人を日本船で賄うとすれば、旅客定員2000名の船が4隻、600名の船が8隻、300名の船が3隻必要と、具体的な数字が並んでいる。現在、日本のクルーズ客船として600名定員船が5隻活躍しており、新造も計画されているような

ので、残るは、2000名船3隻あまりということとなろう。今のところ、現実には海外船社がクルーズ客船を配船するの最も可能性が大きいので、海外船社の手を借りた上でこの目標を達成することを考えてみよう。

スター・クルーズが、マーケットの爆発具合によっては、「スーパースター・レオ」以外の船を追加投入することも考えられるが、いち客船ファンとしてはもう少しバラエティが欲しい。この3隻を、カーニバル、ロイヤル・カリビアン、プリンセスの、世界のクルーズ運航会社のビック・スリーが1隻ずつ投入してくれれば、これで100万人中の60万人は達成できることとなる、などと夢を見ている。さらに外国籍船だけでなく日本の資本の大衆クルーズ船もぜひ欲しい。本格的な日本食を好む人々も多く、ビック・スリーとは違った日本風のクルーズが展開できるように思う。このように考えると、100万人構想もまんざら夢物語ではなくなくなってくる。

〔日〕本近海のクルーズ航路としては、「スーパースター・トラス」の行っている韓国クルーズはなかなかよい。静かな瀬戸内海の航海があり、荒れる可能性のある玄海灘の航海時間は限られているから、船酔いの心配が少ないからだ。

この他にも、魅力的なクルーズコースを作らなければならない。夏の北海道を起点にして、ロシア寄港のクルーズなどもよさそうだ。例えば、千歳空港からも近く、現在有珠山の噴火被害を受けている洞爺などの再建支援にもなるように、室蘭港から定

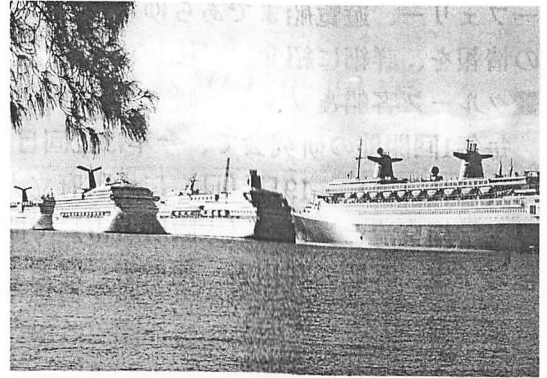


日本のマスマーケットを開拓する「スーパースター・トラス」

期的にクルーズを出すなどいかがであろう。幸い、国内航空運賃も急速に低下しており、カリブ海クルーズのように格安のフライ・クルーズができる環境が整いつつある。初夏から夏にかけて、避暑のための北海道・ロシアクルーズなどがポピラーとなる日も近いのかもしれない。

**【最】** 近、スター・クルーズが、秋からのクルーズを発表した。今年前半のプロモーション価格からは大幅にクルーズ料金が上がり、最低価格は計画段階で報じられていた1泊あたり15000円からとなっている。また、週末クルーズが金曜日に夜に出港し、火曜に神戸に戻る4泊5日になっている。料金の方はほぼカリブ海並となり、筆者が見る適性価格に近いが、国内の旅行と比べた時の割安感が若干なくなった感じが否めない。

最低料金が、1泊あたり12000円くらいからだと、若い人にも今までどおり受け入れられるように思う。また、週末クルーズを1日伸ばしたことは、現役のサラリーマン、家族連れには厳しい状況になった。日本のマスマーケットを成長させるための救世主



カリブ海クルーズに就航する大型客船群(マイアミ港)

的存在なので、ぜひ的確な判断をもって、慎重な事業展開をお願いしたいと思う。

最後に、筆者が今年計画している客船事業振興のためのいくつかの企画について簡単にご紹介したい。

#### ■高速カーフェリー視察旅行

9月16日(土)発、25日(月)帰国の、10日間の視察旅行で、欧州における高速カーフェリーの成功事例について実際に乗船して調査するのが目的のツアー。まずアイルランド航路において激しい競争をしているステナのH S S 1500型船と、オースタル86m型船を乗船視察。この航路では自動係船装置などの近代的なフェリー施設も見学。飛行機でカナリー諸島に移動し、島内航路に就航するインキャットの96m型ウェイブピアサーに乗船視察。筆者が同行して、欧州におけるフェリー事情等の解説を逐次行う。費用は、ビジネス・クラス利用で98万円ほどの予定。取り扱いは、業務渡航センター。

#### ■フェリー・客船情報2000の発行

客船の総合年鑑として、97年から発行している情報誌。クルーズ客船から、高速カ

ーフェリー、遊覧船まであらゆる新鋭客船の情報を、詳細に紹介。7月頃の発行予定。

### ■クルーズ客船&フェリー研究会

毎年1回開催の研究会で、今年は12回目。11月18日（土）・19日（日）に大阪府立大学・学術交流センター（大阪府堺市）で開催の予定。客船の利用者、運航者、建造者

が一同に集まって客船振興について熱っぽく議論する2日間。

以上の企画に関するお問い合わせは、大阪府立大学大学院海洋システム分野・池田良穂研究室（Tel.0722-54-9343, Fax.0722-54-9914, Email.iked@marine.osakafu-u.ac.jp）までお願いします。

## 第12回クルーズ客船&フェリー研究会

### 講演募集中

共催 大阪府立大学大学院

海洋システム工学分野 池田研究室 ・ 船と港編集室

後援 現在依頼中

クルーズ客船から、カーフェリー、離島航路客船まで、あらゆる客船事業の振興を図ることを目的として、利用者、運航者、建造者等、客船に関わる人々が集まり、議論をし、情報交換を行う会議です。今年は、「日本におけるクルーズ事業の振興」と「規制緩和時代を迎えた旅客船業の在り方」をメインテーマにして、2日間にわたり講演とパネルディスカッションを繰り広げたいと考えています。

現在、講演の募集中ですので、奮ってご応募下さい。テーマは客船に関するものであれば何でも結構ですが、参考のためにいくつかの講演ジャンルを挙げておきます。講演時間は、20～30分とします。

- 1) 新造客船の紹介（ユニークな客船の建造事例、コンセプト等ご紹介ください）
- 2) 客船事業の実績（客船事業の成功事例をご紹介ください）
- 3) 客船事業における需要予測（客船の需要創造のための需要予測、マーケティング等についてご紹介ください）
- 4) 客船の経済性（客船の経済性評価の手法、事例等についてご紹介ください）
- 5) 客船の技術（客船の技術についてユニークなものをご紹介ください）
- 6) 客船への乗船報告、提言

開催日時：2000年11月18（土）～19（日）日

開催場所：大阪府立大学・学術交流会館

（地下鉄御堂筋線・中百舌駅または南海高野線白鷺駅より徒歩10分）

参加費用：12,000円

事務局：大阪府立大学大学院 海洋システム工学分野 池田良穂

〒599-8531 堺市学園町1-1

Tel.0722-54-9343, Fax.0722-54-9914, Email: [iked@marine.osakafu-u.ac.jp](mailto:iked@marine.osakafu-u.ac.jp)